

「気になる行動」と感覚の関係							
子どもの発達と遊びについて							
うまく友達と関わるのが苦手でその場合の環境や状況にあった 行動が取れない							
落ち着きがない							
体の動きがぎこちない							
友達と関わるのが苦手							
上記の行動の原因の一つに、脳で行われる感覚の 情報処理がうまくいかないことがあると考えられます。							
特定の刺激を強く感じたり、反対に感じにくかったりすることが 原因の一つになるため、コミュニケーションや対人関係を築くことが 苦手になってしまう。							
うまく感覚が統合されてない子どもおすすめなのが「感触遊び」 『粘土遊び』や「スライム遊び』です。							
感覚ってなに？							
「感覚」とは、体に加わる刺激を感じる働きのこと。 脳は常に感覚情報を整理して、必要な行動を取るために 必要な情報と不必要な情報を分け、体の働きをコントロールしています。							
この機能が未発達だと感覚情報が混乱して、様々な気になる行動に 繋がります。							
(色々な感覚)							
感覚には、五感(視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚)の他に 前庭覚、固有覚があります。							
気になる行動に繋がりがやすいのは、視覚(見でみて認識)、聴覚(音を聞き分ける)、触覚(触れて感じる)、 前庭覚(バランス能力)、固有覚(体の動きや力かげん)が未発達の場合です。							
粘土遊びは、強化したい感覚に刺激を与えてくれる。 目で捉えた情報を手動きに正確に反映することで細かな手の動きを鍛えます。(視覚) 手に触れた感じ(触覚)や力加減(固有覚)などの感覚が育つことで指先の細かい動きができるようになります。 粘土をちぎったり叩きつける音を感じることができる(聴覚)							
手指の運動スキルの向上							

粘土遊びをするには、細かな手の動きが必要です。				
これにより手の器用さや運動スキルがアップします。				
体幹の運動促進				
粘土あそびは座ったり立ったりする姿勢を必要とする場合があります。				
思いっきり力を入れてこねる時は、体幹を安定させる必要があります。				
その結果、バランス感覚や体幹がUPします。				
実際作ってみると？				
スライム作りは手に触れた感触や混ぜるときの力加減などの感覚を楽しみながら作れる				
手の感触が気持ちいい				
好きな色を混ぜると新しい色ができた				
効果は？				
文字が綺麗に描けるようになる				
以前は殴り書きだったけど、ゆっくりと落ち着いて文字を書けるようになった。				
固有受容覚の発達により指先の力加減が上手にできるようになった。				
洋服の肌触りが苦手だったが、気にしないようになった				
触覚の感覚統合が行われたことで、触った感覚を適切に脳内で処理できるようになったから				
爪を噛む癖が減った				
手への感覚刺激や運動などが原因だと思われます。				
ただしこれは原始反射の抑制にアプローチしたことも要因の一つだと考えられる。				